

「今、ここにある風景 = コレクション + アーティスト + あなた」

主 催：静岡県立美術館
 会 期：平成14年7月27日(土)～9月8日(日)
 夜間開館：会期中の土曜日は午後8時まで
 休 館 日：毎週月曜日
 助 成：芸術文化振興基金助成事業
 観覧者数：11,522人

教育普及プログラム 「ヒキダシタイプログラム」

主 催：静岡県立美術館、静岡県立美術館友の会
 協 賛：株式会社静岡第一テレビ、株式会社タミヤ、
 株式会社ピーエーシー、静岡鉄道株式会社、
 常葉学園大学造形学部
 協 力：静岡デザイン専門学校

本展覧会は、異なる傾向を持つ4人の若手現代美術作家である大岩オスカル幸男・日高理恵子・吉田暁子・菱山裕子が、2300点を超える静岡県立美術館の所蔵作品から自由に任意の作品を選び出し、自分の作品とともに同じ空間に展示をする形で行われる、作家作品と所蔵作品のコラボレーションであり、それを見る観覧者がいて初めて成立する展覧会である。

通常、展覧会には、企画した学芸員から示される美術史的観点や作品の見方というものがある程度設定されており、観覧者は無意識のうちにその設定されたラインを読み取ることを要求される。今回は、作家の目を通すことで、数世紀を経て今にのこる所蔵作品が新たな光をあてられ、また新しく制作されている現代若手作家の作品が、長い時間を耐え抜いてきた所蔵作品と出会うことで、いつもとは違う光で互いを照らしあうことが意図されている。観覧者は「所蔵作品を選ぶ作家の眼」に導かれて、いつもの予期された枠組みから自由になって作品を見るチャンスを得、所蔵作品と作家の間に交わされる視線の証人になると同時に、そこに自らの視線をも重ね合わせる参加者となるのである。この意味で、「重なり合う視線」が本展覧会のひとつのキーワードとなった。

4人の作家の、所蔵作品に対するまったく異なるアプローチは、観覧者に幾分か戸惑いと、時代を超えた作品が並置される驚きとそこからもたらされるわくわくするような気持ち、美術史の枠にとらわれずに作品と向き合う喜びを提供した。作家にとっても、時代を超えた作品との出会いは貴重な経験となったことは、図録に収録された各作家のテキストを見れば明らかである。現代美術に対するアレルギーにも似た敬遠反応を幾分か軽減し、収蔵作品に対するマンネリ化した反応不全も改善されたように思われる。たとえば、常設館であるロダン館での菱山裕子の作品設置は、訪れたどんな人にも新鮮な驚きと、見る楽しさを素直に受け止める場となっていた。このことは、地元テレビ局が非常に積極的に特集報道を行い、新聞各紙が取り上げたことから明らかである。

また、当館での通常の企画展展示室だけでなく、収蔵品展覧に当てられている第7展示室や常設館であるロダン館をも会場とし、エントランスも含めて美術館全体に4作家の作品が展示されたこと、チケットを使ったスタンプラリーで実技室などを訪ね当てるようにルートを設定したことなどにより、美術館の中のすべての場所が何らかの出会いと発見の場所となり、



ポスター

「展覧会で絵を見る」ということにとどまらない、美術館全体を楽しむ空気を醸し出していた。図らずも夏休み期間と重なったことで、家族連れが思い思いに美術館を楽しむ姿が多く見られ、活気にあふれた館内となったことも特筆されよう。

更に、観覧者への手助けとして地元学生による「ヒキダスタイ・プログラム」が用意され、観覧者の更に充実した鑑賞体験とその記憶化を推し進めた。このプログラムは、観覧者に対してだけではなく、社会における美術館活動の認知という意味を強く持ち、美術館における広い意味での教育普及活動を積極的に行った例となった。

報道

新聞掲載記事

2002年8月8日 静岡新聞

ウォッチング「アルミメッシュな侵入者」

2002年8月21日 静岡新聞

社説「美術館の活路・収蔵品を見せる工夫を」

2002年8月21日 毎日新聞

見る聴く遊ぶ静岡「所蔵品の美、再構築 若手4人、空間を“展示”」

2002年8月23日 朝日新聞

教育文化「『新しい風景』異色の展覧会 名品・名画と自作を同じ空間に」

2002年8月28日 朝日新聞(全国)

「若手作品と所蔵品と見る人と 『ここにある風景』展」

2002年8月30日 南日本新聞

ファイル2002「美術館のコレクション活用『作家の視点展示に生かす・収蔵庫は“問い”の宝庫』」

2002年9月1日 山陽新聞

ファイル2002「コレクション活用に工夫・作家の目で展覧会」

2002年9月3日 日本海新聞

ファイル2002「コレクションを活用・所蔵品は『問い』の宝庫 美術作家の目で展覧会」

2002年9月4日 山陰中央新報

ファイル2002「収蔵品は『問い』の宝庫・美術作家の目で展覧会」

2002年9月6日 埼玉新聞

ファイル2002「収蔵品は『問い』の宝庫・美術作家の目で展覧会」

2002年9月7日 新潟日報

ファイル2002「美術館の収蔵品 外部の目で違う顔に・活用、工夫する動き目立つ」

2002年9月14日 岐阜新聞

ファイル2002「収蔵品問う コレクション活用・課題は学芸員の目」

2002年9月16日 四国新聞

ファイル2002「美術作家の目で展覧会 収蔵品を見直す試み・外部の視点で新発見も」

2002年11月28日 朝日新聞(全国)

「美術館 金はなくとも知恵絞る・財政難ゆえ収蔵品に光」

2002年12月19日 朝日新聞(全国)



チケット



美術この1年「私が選ぶ五つの展覧会」本江邦夫氏により選出

テレビ放映

- ・SBSテレビ テレビタ刊・展覧会開会と内容紹介
- ・静岡朝日テレビ 展覧会開会と内容紹介
- ・テレビ静岡 『静岡映像館』
- ・SBSテレビ テレビタ刊『美術館の挑戦』

カタログ

22.6×30.7cm 120ページ

「今、この場所から」

李 美那

出品4作家作品写真・出品所蔵作品写真・作品キャプションおよび展示写真・見取り図

「ヒキダシタイ・プログラム」

李 美那

出品作家によるテキストおよび略歴

「僕が見てきた風景」

大岩オスカル幸男

「『今、ここにある風景』展をめぐる覚え書き」

日高理恵子

「色、振動する身体 いろ、しんどうするからだ」

吉田暁子

「40日 / 40,000日」

菱山裕子

4作家による出品作品の全リスト

関連事業

出品作家によるフリートーク：

8月10日（土）日高理恵子

『キーワードは“空の空間” - 素材と技法・視覚と知覚の体験』

8月17日（土）菱山裕子

『何を見ているの？何を話しているの？ 対話する作品たちの出会い』

8月31日（土）吉田暁子

『作家・吉田暁子が語る - ここでの、この作品たちとの出会い』

各回14:00～ 実技室集合、実技室および展示室・ロダン館にて開催

鑑賞講座：

8月18日（日）

『今、ここ おいしい食べ方のすすめ』李美那 講堂にて

ボランティアによるギャラリートーク：

本展は収蔵作品と作家による作品のコラボレーショ



カタログ



チラシ



ン展のため、ギャラリートークでは主に出品されている
収蔵作品についてのトークを行い、トークを担当する
ボランティア自身の興味と判断により作家の作品にも
言及する形をとった。これは、作家が収蔵作品をどの
ように解釈するかを、自由に鑑賞者に受け止めてもら
うという本展の目的を妨げない意図も含んだもので
ある。結果的に、収蔵作品のトークをしながら、鑑賞
者と作家作品についても意見の交換が行われ、通常の
トークとは一味異なる経験となった。担当したボラン
ティア各自にとっても良い刺激であった。

教育普及プログラム『ヒキダシタイ・プログラム』 実施

本展覧会では、通常は来館者を対象として企画され
る教育普及プログラムの考え方を広げ、静岡を地盤と
して美術を学ぶ学生が美術館と展覧会とに直接かわ
り、それを「現場」として、来館者に自らが何かの行
動を企画・立案・実行する機会を提供し、ともに行動
することで、地元の美術を担う若手の育成と、社会へ
の貢献を視野に入れて行われた。

プログラムへの参加メンバーは「チームでこぼん」
(静岡文化芸術大学+常葉学園大学の学生及びOB)
「チーム下剋上」(静岡デザイン専門学校の学生)の2
つがあり、それぞれが得意分野を活かして活動を持
った。

「チームでこぼん」は展覧会観覧者へ直接会場で働
きかけるワークショップを企画立案実行し、展覧会を
見た人が持つ「形になりにくい気持ち」を自分の言葉
で表して、展覧会との出会いを記憶にとどめてもら
おうという3種類のプログラムと1種類のワークシート
を行った。

「チーム下剋上」はそれを側面から支えるパンフレッ
トやムービー、活動報告の制作のほか、スタッフのネー
ムタグなどのデザインなどを全般的に担当した。学生
たちの活動の詳細は、平成15年3月に発行された「ヒ
キダシタイ=でこぼん+下剋上 ヒキダシタイ・プロ
グラム活動報告書 (CD-ROM 付き冊子)」を参照され
たい。

また、このプログラムは静岡県立美術館友の会との
共催で行われ、友の会が核となって地元の企業や個人
に支援をお願いした。ボランティアで活動する学生た
ちの交通費などは、これらの企業の協力によりまかな
われている。

美術館が学生たちの実践的活躍の場となり、地元企

業や個人が美術館友の会を通じてこれを資金的にバッ
クアップすることで社会的にこの活動を認知し、学生
たちの作成したプログラムに参加する観覧者がこの全
体の確認をすることになる。学生たちによって最後に
活動報告書が刊行されたことは、この活動が社会から
の支援によるものであることを学生自身がきちんと受
け止め、責任ある企画立案と実施をすることにつなげ
るためであるとともに、学生の成長記録を公表し、社
会の支援がきちんと結実していることを報告するもの
でもある。展覧会だけでなく、このように社会が美術
館を通して若者の育成にかかわることをアピールする
ことを以て、広い意味での美術館の普及活動と考えた。
また、美術館と学生、社会、観覧者のこのような円環
が、美術館が社会の中での存在意義をはっきりと認知
させることに役立つと考えるが、この認識サイクルは
今後の美術館活動にとって非常に重要な部分を担うで
あろう。



ヒキダシタイ・プログラム 活動報告書

出品目録

作者名 (収蔵作品作家の生没年)	作品名	制作年	材質	寸法 (cm)	所蔵先
1 大岩オスカー幸男	牛が見た風景	平成14年 (2002)	ミクストメディア	105×88、厚み12 (エントランス ホール展示)	作家蔵
2 大岩オスカー幸男	盆栽 No.13 (7年物)	平成14年 (2002)	ミクストメディア	h14.5、6×6	作家蔵
3 駒井哲郎 1920-1976 (大正9-昭和51)	樹	昭和33年 (1958)	紙、エッチング	27.0×18.0	当館蔵
4 大岩オスカー幸男	森	平成12年 (2000)	キャンヴァス、油彩	222×440	作家蔵
5 アレッサンドロ・マニヤスコ 1667-1749	山道の行列	1716-17頃	キャンヴァス、油彩	186.5×157.0 (楕円)	当館蔵
6 大岩オスカー幸男	戦争と平和	平成13年 (2001)	キャンヴァス、油彩	220×440が2点 ライトボックス 21	作家蔵
7 狩野探幽 1602-74 (慶長7-延宝2)	一ノ谷合戦 二度之懸図屏風	承応-明暦年間 (1652-58)	紙本金地着色	156.6×358.2	当館蔵
8 大岩オスカー幸男	お客様	平成12年 (2000)	キャンヴァス、油彩	220×220	作家蔵
9 秋野不矩 1908-2001 (明治41-平成13)	ブラーミンの家	昭和59年 (1984)	紙本着色	113.5×212.0	当館蔵
10 大岩オスカー幸男	エイズ患者	平成6年 (1994)	ベニヤ、アクリル絵 具、コーヒー	251×182	第一生命保 険相互会社
11 マックス・クリンガー 1857-1920	疫病	1898-1909	紙、エッチング、 エングレーヴィング、 アクアチント	36.3×31.3	当館蔵
12 大岩オスカー幸男	五千円札の地盤	平成7年 (1995)	ベニヤ、 アクリル絵具	182×182	個人蔵
13 五姓田義松 1855-1915 (安政2-大正4)	富士	明治38年 (1905)	キャンヴァス、油彩	46.8×101.5	当館蔵
14 歌川広重 1797-1858 (寛政9-安政5)	東海道五拾三次 (保永堂版) 由井 薩埵嶺	天保4頃 (1833) 頃	紙、木版、色摺	25.7×38.5	当館蔵
15 歌川広重 1797-1858 (寛政9-安政5)	不二三十六景 / 下総鴻の台	嘉永5年 (1852)	紙、木版、色摺	18.1×25.5	当館蔵
16 大岩オスカー幸男	母と子 インスタレーション 模型	平成8年 (1996)	ミクストメディア	h12.3、 63.6×25.9	作家蔵
17 恩地孝四郎 1891-1955 (明治24-昭和30)	母と子	大正6年 (1917)	紙、木版	31.0×24.0	当館蔵
18 北川民次 1894-1989 (明治27-平成1)	母子像	昭和32年 (1957)	紙、リトグラフ	44.5×33.5	当館蔵
19 大岩オスカー幸男	きのこ 2	平成13年 (2001)	キャンヴァス、 油彩	90×70	作家蔵
20 アンゼルス・キーファー 1945-	極光	1978-88	写真、灰、 焦げ跡のついた鉛、 上塗りした鉄のフレーム	241.4×101.4	当館蔵
21 大岩オスカー幸男	ライトラビットとシャドウ キャットの出会い	平成12年 (2000)	キャンヴァス、油彩	91×91	個人蔵
22 円山応挙 1733-1795 (享保18-寛政7)	木賊兎図	天明6年 (1786)	絹本着色	104.5×42.0	当館蔵
23 大岩オスカー幸男	フラワー	平成7年 (1995)	ベニヤ、 アクリル絵具	182×364	作家蔵
24 中川一政 1893-1991 (明治26-平成3)	風景 (池袋の麦畑)	大正8-9年 (1919-20)	キャンヴァス、油彩	45.5×53.0	当館蔵
25 大岩オスカー幸男	古代美術館	平成7年 (1995)	ベニヤ、 アクリル絵具	182×546	豊田市 美術館
26 ユベール・ロベール 1733-1808	ユピテル神殿、 ナポリ近郊ボッツオーロ	1761	板、油彩	39.1×43.8	当館蔵
27 大岩オスカー幸男	エイジアン ドラゴン	平成7年 (1995)	ベニヤ、 アクリル絵具	182×546	豊田市 美術館
28 歌川広重 1797-1858 (寛政9-安政5)	東海道五拾三次 (保永堂版) 土山 春之雨	天保4年頃 (1833) 頃	紙、木版、色摺	25.5×38.7	当館蔵
29 日高理恵子	樹を見上げて	平成3年 (1991)	麻紙、岩絵具	162×162 (エントランス ホール展示)	国立国際 美術館

作者名 (収蔵作品作家の生没年)	作品名	制作年	材質	寸法 (cm)	所蔵先
30 日高理恵子	樹の空間から (3点組み)	平成12年 (2000)	麻紙、岩絵具	左140×140、 中100×100、 右115×115 (エントランス ホール展示)	賛美小舎・ 上田國昭氏・ 克子氏
31 日高理恵子	空との距離	平成14年 (2002)	麻紙、岩絵具	240×240 (エントランス ホール展示)	広島市現代 美術館
32 日高理恵子	樹を見上げて	平成5年 (1993)	麻紙、岩絵具	220×600	作家蔵
33 草間彌生 1929- (昭和4-)	無題	昭和34年 (1959)	キャンヴァス、油彩	232.5×359.0	当館蔵
34 桑山忠明 1932- (昭和7-)	無題 (黒)	昭和36年 (1961)	キャンヴァス、 アクリル	173.0×344.5	当館蔵
35 日高理恵子	樹	昭和58年 (1983)	麻紙、岩絵具	207×180	作家蔵
36 日高理恵子	樹 (ドローイング)	昭和58年 (1983)	紙、鉛筆	23×20	作家蔵
37 レンブラント・ファン・レイン 1606-1669	三本の木	1643	紙、エッチング、 ドライポイント	21.3×28.1	当館蔵
38 日高理恵子	葉光	昭和58年 (1983)	麻紙、岩絵具	149×178.5	国立国際 美術館
39 日高理恵子	葉光 (ドローイング)	昭和58年 (1983)	紙、鉛筆	17.5×21	国立国際 美術館
40 日高理恵子	落葉樹 (ドローイング)	昭和62年 (1987)	紙、鉛筆	28×50	作家蔵
41 日高理恵子	カラマツ (ドローイング)	昭和60年 (1985)	紙、鉛筆	20.5×30	作家蔵
42 日高理恵子	丘 (ドローイング)	昭和59年 (1984)	紙、鉛筆	13.5×32.4	作家蔵
43 日高理恵子	ポプラ (ドローイング)	昭和59年 (1984)	紙、鉛筆	18.7×33.5	作家蔵
44 日高理恵子	樹列 (ドローイング)	昭和58年 (1983)	紙、鉛筆	14.0×34.3	作家蔵
45 日高理恵子	樹林 (ドローイング)	昭和59年 (1984)	紙、鉛筆	20.2×26.0	作家蔵
46 日高理恵子	ケイトウ	昭和57年 (1982)	紙、鉛筆	21×19	作家蔵
47 日高理恵子	デューラー「使徒の手」模写	昭和55年 (1980)	紙、鉛筆、水彩	23.7×16.5	作家蔵
48 日高理恵子	レンブラント「子供と老婦人の習作」模写	昭和55年 (1980)	紙、鉛筆、水彩、 インク	19×15	作家蔵
49 日高理恵子	レンブラント「老人」模写	昭和54年 (1979)	紙、鉛筆	14.5×13	作家蔵
50 日高理恵子	樹を見上げて (ドローイング)	平成4年 (1992)	紙、鉛筆、水彩	44×72	作家蔵
51 日高理恵子	樹の空間から (ドローイング) 2点組み	平成10年 (1998)	紙、鉛筆	44×72 ×2枚組み	作家蔵
52 日高理恵子	樹を見上げて (ドローイング)	平成4年 (1992)	紙、鉛筆、水彩	44×120	個人蔵
53 日高理恵子	空との距離	平成14年 (2002)	麻紙、岩絵具	240×240	作家蔵
54 ボール・セザンヌ 1839-1906	ジャ・ド・ブーフアンの大樹	1885-87	紙、水彩、鉛筆	32.5×50.0	当館蔵
55 日高理恵子	空との距離 (ドローイング)	平成14年 (2002)	紙、鉛筆	69×69	作家蔵
56 日高理恵子	空との距離 (ドローイング)	平成14年 (2002)	紙、鉛筆、水彩	69×69	作家蔵
57 吉田暁子	笹視誰 (さみだれ)	平成14年 (2002)	和紙、糊、水滴、 窓越しに見える竹林、 窓からさす陽	(エントランス ホール展示)	展示終了後 解体

作者名 (収蔵作品作家の生没年)	作品名	制作年	材質	寸法 (cm)	所蔵先
58 吉田暁子	かなたの彼方 (あなた) の底 (そこ) に在 (あ) る	平成14年 (2002)		第6・7展示室、 ほか展覧会域	展示終了後 解体
59 吉田暁子	空層の散文 返歌	平成14年 (2002)	和紙、岩料、水滴、 収蔵品	第6展示室全域 として	展示終了後 解体
60 吉田暁子	視遠離 (みどり) 2001年から 想庭 (そうてい)	平成14年 (2002)	和紙、岩料、墨、 震え (てカットされ) たキャンバス、弛ん だ紗、収蔵品	第6展示室 右のL型ガラス ケース全体とし て	展示終了後 解体
61 狩野探幽 1602-1674 (慶長7-延宝2)	富士山図	寛文7年 (1667)	紙本墨画淡彩	56.6×118.4	当館蔵
62 吉田暁子	鳥の鳴く 睹離 (とり) / 散 文詩 * 睹: 見る。見わかる。よく 見る。(『大漢和辞典』大修 館書店 昭和33年発行)	平成13年 (2001)	膠、岩料、特殊塗料、 墨、弛んだ紗、 厚さの違うパネル、 ガラスに落ちる水滴、 収蔵品、 会場内の微かな風	50個のパネル	個人蔵
63 村上華岳 1888-1939 (明治21-昭和14)	春峰晴煙図	昭和3年 (1928)	紙本淡彩	43.7×60.9	当館蔵
64 吉田暁子	こだまのにわ	平成14年 (2002)	膠、岩料、墨、 金泥、和紙、 ガラスに落ちる水滴	第6展示室 右のL型ガラス ケース内外	作家蔵、 一部は展示 終了後解体
65 李禹煥 1936-	風と共に	平成1年 (1989)	キャンバス、油彩	161.8×130	当館蔵
66 宮脇愛子 1929- (昭和4-)	作品12	昭和37年 (1962)	パネル、油彩、 大理石粉	121.0×181.5 (額付外寸122.8 ×183.2)	当館蔵
67 福田平八郎 1892-1974 (明治25-昭和49)	雪庭	昭和33年 (1958)	紙本着色	56.0×81.0	当館蔵
68 吉田暁子	視遠離 (みどり) 2001年から 想景 (そうけい)	平成14年 (2002)	和紙、岩料、墨、 震え (てカットされ) たキャンバス、 弛んだ紗、収蔵品、 部屋の微かな風	第6展示室 左のガラスケー ス全体として	展示終了後 解体
69 池大雅 1723-1776 (享保8-安永5)	龍山勝会・蘭亭曲水図 (重要文化財)	宝暦13年 (1763)	紙本着色	各158.0×358.0、 6曲1双	当館蔵
70 吉田暁子	宿り疑	平成14年 (2002)	膠、岩料、 会場と同一の壁材、 時間を経た壁、 不定型が25個	第6展示室	作家蔵、 一部は展示 終了後解体
71 吉田暁子	宿り疑 カンディンスキーの ために。クレーのために。ピ カソのために。エルンストの ために。ロランのために。ミ シャロンのために。デュゲの ために。プリルのために。ピ ドーのために。ウィルソンの ために。コンスタブルのため に。パーマーのために。クー ルベのために。シニャックの ために。ヨンキントのために。 モネのために。ゴーギャンの ために。 彼方の視る、全ての絵画のは じまりに。	平成14年 (2002)	特殊素材、塗装	第7展示室	作家蔵、 一部は展示 終了後解体
72 菱山裕子	秘密のはなし	平成11年 (1999)	アルミニウム、 ステンレススチー ル、プラスチック	h130、50×55×6体 (エントランス ホール展示)	作家蔵
73 菱山裕子	Bending	平成12年 (2000)	アルミニウム、 ステンレススチール	h130、65×70 (エントランス ホール展示)	作家蔵
74 菱山裕子	お花畑に風が吹く/ピンク	平成8年 (1996)	アルミニウム、 ステンレススチール	h100、180×55	榊ヤマゲン
75 菱山裕子	見えない魚をつかまえに	平成11年 (1999)	アルミニウム、 ステンレススチール	h43、48×233	作家蔵

作者名 (収蔵作品作家の生没年)	作品名	制作年	材質	寸法 (cm)	所蔵先
76 菱山裕子	ぴちぴち・ちゃぷちゃぷ・らんらんらん	平成9年 (1997)	アルミニウム、 ステンレススチール、木	h64、37×35	個人蔵
77 菱山裕子	いいことがあった日	平成7年 (1995)	アルミニウム、 ステンレススチール、木	h162、124×120	㈱ヤマゲン
78 オーギュスト・ロダン 1840-1917	バ스티アン・ルパージュ	1887 - 89	ブロンズ	h175、92×82	当館ロダン 館蔵
79 菱山裕子	三匹目の犬	平成13年 (2001)	アルミニウム、 ステンレススチール	h97、41×81	個人蔵
80 オーギュスト・ロダン 1840-1917	クロード・ロラン	1889	ブロンズ	h212、121×103	当館ロダン 館蔵
81 菱山裕子	犬-待ってるんですけど	平成5年 (1993)	アルミニウム、 ステンレススチール、木	h87.5、30×44.5	濱野裕司
82 オーギュスト・ロダン 1840-1917	考える人	1880 (1902 - 04拡大)	ブロンズ	h183、130×110	当館ロダン 館蔵
83 菱山裕子	見えるものと見えないもの	平成12年 (2000)	アルミニウム、 ステンレススチール、木	h89、56×38.5	作家蔵
84 オーギュスト・ロダン 1840-1917	女のケンタウロスのトルソと 絶望する若者・女のケンタウ ロスのトルソと女のトルソ・ 女のケンタウロスのトルソと イリスのためのトルソ		ブロンズ	h31.2、24.5×13.1、 h21.5、15.1×12.4、 h22.9、11.3×13.2	当館ロダン 館蔵
85 菱山裕子	Reaching for Your Heart	平成14年 (2002)	アルミニウム、 ステンレススチール、木	h168、78×80	作家蔵
86 オーギュスト・ロダン 1840-1917	フギット・アモール	1887頃	大理石	h55、87.6×56	当館ロダン 館蔵
87 菱山裕子	コロイド粒子の夢 6	平成6年 (1994)	アルミニウム、 ステンレススチール	h173、47×42.5	個人蔵
88 菱山裕子	コロイド粒子の夢 13	平成6年 (1994)	アルミニウム、 ステンレススチール	h75、96×64	個人蔵
89 菱山裕子	コロイド粒子の夢 14	平成6年 (1994)	アルミニウム、 ステンレススチール	h80.5、65×51.5	個人蔵
90 菱山裕子	コロイド粒子の夢 16	平成6年 (1994)	アルミニウム、 ステンレススチール	h64、58×78.5	個人蔵
91 菱山裕子	泳ぐ人 (2体1組)	平成12年 (2000)	アルミニウム、 ステンレススチール	h45、299×22.5、 h45、240×25	作家蔵
92 オーギュスト・ロダン 1840-1917	地獄の門	1880-1917	ブロンズ	h620、390×100	当館ロダン 館蔵
93 菱山裕子	Flying High	平成12年 (2000)	アルミニウム、 ステンレススチール、木	h168、78×80	作家蔵
94 オーギュスト・ロダン 1840-1917	永遠の休息の精	1899頃	ブロンズ	h193、100×91	当館ロダン 館蔵
95 菱山裕子	いいいいいいばあ	平成8年 (1996)	アルミニウム、 ステンレススチール、木	h159、103×90	作家蔵
96 オーギュスト・ロダン 1840-1917	バルザックの頭部	1897	ブロンズ	h49、49.5×38	当館ロダン 館蔵
97 菱山裕子	歩く男-次の休暇はいつだっ たか	平成9年 (1997)	アルミニウム、 ステンレススチール、木	h158、70×85	作家蔵
98 オーギュスト・ロダン 1840-1917	カレーの市民 (単体像) ユスターシュ・ド・サン = ピエール	1886-87	ブロンズ	h214、77.5× 114.5	当館ロダン 館蔵
99 菱山裕子	見ないふり	平成12年 (2000)	アルミニウム、 ステンレススチール	h220、80×35	作家蔵
100 菱山裕子	見ないふり	平成12年 (2000)	アルミニウム、 ステンレススチール	h220、90×50	作家蔵
101 菱山裕子	見ないふり	平成12年 (2000)	アルミニウム、 ステンレススチール	h220、94×35	作家蔵
102 オーギュスト・ロダン 1840-1917	カレーの市民 (単体像) ジャック・ド・ヴィッサン	1887-89	ブロンズ	h210、135×76	当館ロダン 館蔵